タスクシフトによるチーム医療の進化

臨床検査技師の新たな役割と貢献

◎松井 京子 [1)]
医療法人社団富家会 富家病院 [1)]

【はじめに】医師の働き方改革の推進に関する検討会が発足し、2024 年 4 月から医師の時間外労働に対する上限の規制が開始された。それにより、臨床検査技師も業務が追加になり、タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会が開催され 2023 年 11 月現在 2 万人近く受講が修了している。

【経緯】当院ではナースサポートチームの一員として、臨床検査技師が設置された経緯があり、当初から病棟採血は臨床検査技師が行っていた。また、2011 年に疥癬の感染拡大がみられたことで、皮膚の検体採取、新型コロナウイルス感染拡大により鼻咽頭ぬぐい液の採取、上部内視鏡検査時の生検組織の採取を行っている。臨床検査技師が関わったことで、有用性があった症例を紹介する。

【症例】病棟採血時、患者と直接接することで顔色、体感温度、痰がらみ、シリンジの引き具合から血圧、脱水等得られる情報が沢山ある。

採血をした検体がサラサラしていれば、輸血の可能性が考えられ、その時に輸血検査に足りるように採っておけば、再採血をしなくてすむ。また、報告を早くすれば、日勤帯の人が多い時間帯に輸血をすることができる。

白血球数が高値であれば、その後の喀痰と尿のグラム染色の時に、どちらに病巣があるのか、どちらにも認められなければ、褥瘡などの可能性がないかなどアドバイスをする。

誤嚥が続いていれば、体勢の変更も提案する。

内視鏡検査に補助に付いた際、食道裂孔ヘルニアが認められれば、NST 回診時に食形態の提案ができる。等様々な情報を伝えている。

【考察】臨床検査技師からの提案により、病巣の特定や、抗菌薬の選択など、治療へ進む時間の短縮ができている。もともとナースサポートチームという位置づけから、看護部とやり取りがしやすく、実績を積むことで聞き入れてもらいやすくなっており、治療に大きく貢献している。

【結語】臨床検査技師が直接患者と関わることで、臨床検査技師独自の目線で気づけることが沢山あり、医師、看護師、はじめ他のコメディカルと情報共有し、チーム医療を進化させている。

049-264-8811